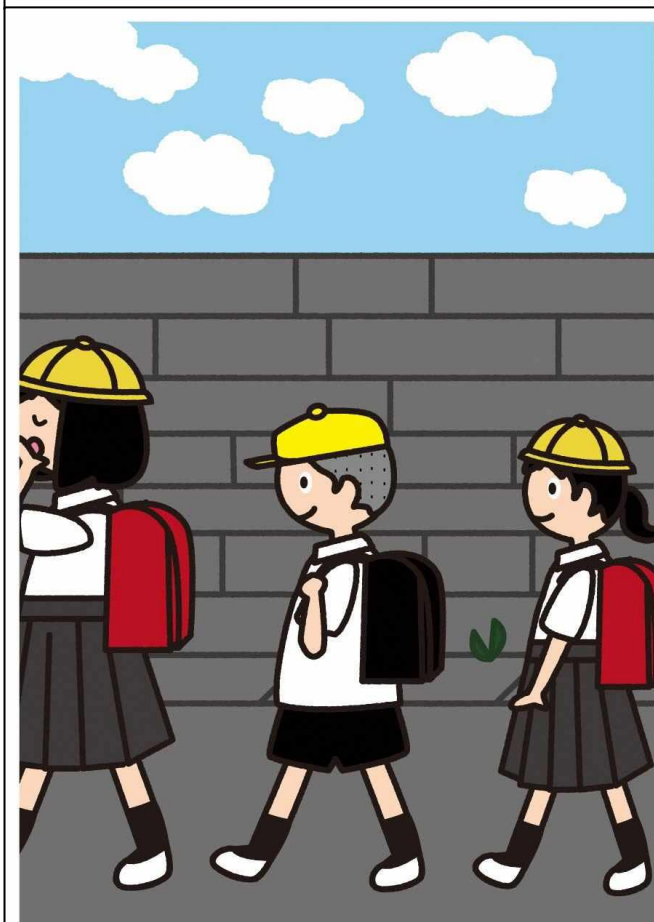




よしおとまさる君の運動会

よしお まなべ よしき
え いのうえ ちか



よしおは、小学校の一年生です。といっても、このお話は、今からもう五十年も昔のお話なのです。よしおが通っていた学校は、毎朝、集団登校をしていました。集団登校とは、近所の子どもたちが集まって、班を作って、みんなでいっしょに学校に行くことです。この集団登校には、きびしい「おきて」があったのです。それは二つ、学校の先生からきびしく言いつけられていたきまりです。一つは、「全員がそろって登校すること」と、もう一つは、「登校時刻におくれないこと」でした。簡単そうに思えますが、登校時には、一年生から六年生まで十人くらいの子どもたちがいますので、時には、集合場所におくれてくる子もいます。この班の中で一番体の小さいよしおは、歩くスピードがおそくて、登校時刻ぎりぎりになってあせってしまうことがありました。今から五十年も前のことから、学校の先生も、とてもきびしくて、登校終了の時刻になると、こわい男の先生が竹のぼうを持って校門の前に立ち、遅れた班は、問答無用でしかられます。言いわけは、一切聞いてくれません。全員がそろっていないければ、校門の前で立たされることも当たり前。とくに、六年生の班長さんにはめづらしくきびしく、「歯を食いしばれ」なんてこともめづらしくありませんでした。